

教師の腕前診断

今回のテーマ

「活力増強の朝の会、帰りの会」

1 朝の会の一番のメニュー

どのクラスでも1日の学校生活は朝の会からスタートすると思います。

朝の会はスタミナドリンクのようなもので、ぎゅっと飲んで元気いっぱい、楽しくやって「今日も一日がんばるぞ」と意欲がわいてくれればしめたものです。このねらいを達成するには次の3つのどれがいいでしょう。

Q1

意欲がわく朝の会のためには、次のうちどれがいいでしょう？

- ① 朝の挨拶から始める
- ② 健康観察から始める
- ③ 朝の歌から始める
- ④ ゲームから始める



私の学校は8時20分に朝の会が始まります。チャイムを合図にカルタゲームを始めます。二人一組、一対一で対決します。カルタの強さ毎に班が分かれていて、38人在籍しています。

から、19班できます。一番強い班が1班です。

カルタに勝つと昇格します。2班が勝つと1班に昇格します。負けると3班に降格です。カルタはチャイムと同時に進みます。遅刻

をすると相手の子はすでに何枚か取っているのので圧倒的に不利になります。対戦相手が欠席の場合は不戦勝になり、教師にかわってカルタの読み手となります。このようにすると、遅刻は「降格」を意味し、自然と遅刻者がいなくなり、欠席すると「班が落ちる」ことが頭をよぎり、病気の回復が早くなるそうです。まさに病は気からです。

1枚取る、取られることに子どもたちは一喜一憂し、そのたびに歓声があがってしまいます。それだと読み手の声が聞こえなくなりますが、「喜びや悔しさは心の中で」と条件をつけています。その反動がカルタ終了時にどっと出ます。「ヤッター、上がった。今度は3班だ。」と喜びを体で表す子どももいれば、負けて悔しがる子どももいて様々です。

カルタの効果は絶大で「カルタがあるから学校に行く」という子が何人もいます。子どもたちはカルタをとて楽しんでいて、登校後にランドセルから勉強道具を出して、机にしまっていないとカルタに参加できません。ですから、遅くてもチャイムがなる5分前には入室しなければなりません。自ずと登校時刻が早くなります。

カルタ効果は他でもあります。登校時間が早くなり、ほとんどの子どもが8時前にランドセルから勉強道具を出して、鉄棒や一輪車や竹馬などの外遊びに興じています。

教師の精神状態もよくなります。遅刻者に

対して「遅刻か」と責める気になりません。

それどころか、「もうカルタが始まっているよ。カバンをロッカーに入れてカルタに参加しよう。」とやさしい言葉を掛ける余裕ができます。

このように、1日の始まりはカルタというパターンを作ることによって「今日も1日がんばるぞ」という生活のリズムができます。私はことわざカルタから始めましたが、四字熟語、慣用句などバージョンを変えています。正月前は百人一首です。

楽しいカルタがあるから遅刻をしないという意欲レベルの効果と知的になるという学力レベルの効果も期待できます。

皆さんもクラスの実態、子どもにつけさせたい能力を考えたゲームを朝の会の始めのメニューに入れる事をお勧めします。

2 健康観察の仕方

カルタの後は、挨拶→歌→健康観察と続きます。さて、皆さんはどのようにして健康観察を進めますか。

Q2

どのようにして健康観察を進めますか？

- ① 出席番号順に始める
- ② ランダムに始める
- ③ 出席番号をずらして始める

「③」の「ずらす」がいいでしょう。

健康観察カードは出席番号順に児童名が押印されています。大方のクラスは出席番号の1番から呼名していると思います。

私は小学校の時に出席番号が後ろの方でした。そのために注射・健康診断など出席番号順に並ぶ時はいつも「後回し」でした。「たまには前で呼ばれたいなあ」と思ったものです。

出席番号順ということは固定されるということとです。それに満足している子は何ら違和感を覚えないでしょうが、私のように不満を持つ子にとってはそのたびに嫌な気持ちになります。出席番号をずらすというのは1番から健康観察を始めたなら、翌日は2番から始めるということとです。こうして順番をずらすことによつて、気分転換になります。

ランダムに呼名をしてもいいのですが、それではいつ呼名されるかがわからずに心の準備ができません。「聞こえない」「なに？」「風邪気味？」と聞き返すことになり、声が小さい子どもや気弱な子どもにとってはプレッシャーや苦痛となります。

彼らに安心感を持たせるためにもランダムに呼名せずに、ずらして健康観察を行います。

健康観察には、もうひと工夫します。教師が呼名するのではなく、初めに呼ばれた子どもが次の子に呼びかけるのです。相手の方にお臍を向けて、目を直視して「君だけにメッセージを送っているんだよ」と強い意志を示します。一対一のコミュニケーションの練習になります。例えば、「はい、元気です。朝食はなんでしたか？○○さん。」「はい、元気です。今朝はパンでした。何時に起きましたか？□□さん。」という具合です。

こうすると笑いが起こり、ほのほのとした雰囲気朝の会になります。
朝の会を楽しく過ごしましょう。

3 帰りの会のメニュー

今日の勉強が終わり、いよいよ下校の時刻、帰りの会を行います。

帰りの会は「今日の振り返り」と明日の幸せの意欲付けです。朝の会がスタミナドリンクなら帰りの会は癒しのマッサージのようなものです。

では、帰りの会はどのように行いますか。

Q3

帰りの会はどのように行いますか？

- ① 朝の会と同じように行う
- ② ゲームだけを行う
- ③ 作文だけを書く

「③」の「作文だけを書く」がお勧めです。

子どもたちは「早く帰りたい」という一心です。一分一秒でも早く帰宅して遊びたいと思っています。朝の会と同じようなメニューでは終了時刻が決まっていけないため、いつ終わるかがわかりません。そのことによつて子どもたちはいらだち、次第に心ここにあらずの状態になります。

そこで、時間を制限した帰りの会をします。

私のクラスの帰りの会は「7分間作文」です。150字原稿用紙を1枚書き上げたら下校します。時間は7分としています。それ以前に書き終わるとその時点で提出して下校します。1枚書き終わらなくても7分経てば、提出して下校します。終わる時間がわかっているために子どもたちは集中して原稿用紙に向かっています。

教師は教卓の前で待っています。子どもたちは仕上げた作文と連絡帳を持ってきます。連絡帳に押し、「さようなら」と言いながら握手をして下校です。

連絡事項は4時間目が終わった時に板書します。子どもたちは手洗い前や給食を食べ終わってからそれを写します。持ち物や明日の授業については前の週に「週の予定表」(週案に「持ち物」を記したプリント)を配布済みです。ですから、連絡帳には宿題と手紙の枚数と予定変更事項だけ書けばいいのです。

子どもたちが帰った後、何枚かの作文を印刷し、翌日に配布します。それらを自分の作文と一緒にファイルします。これがたまるかかなりの量になります。こうすると、年度末に改めて文集作りをせすにすみます。まさに日々が文集作りです。

ファイルの厚さに保護者も圧倒され、作文に拒否反応を示さなくなった我が子に目を細めます。「先生のお陰で作文を書けるようになった。」と保護者の評判も上々です。

作文の題は日々変わりますが、基本的にはクラスに関わることにしています。友達の名前が出て、自分の意見を述べられるような構成を指示します。

今日1日のことを書いて子どもたちは下校します。書くというよりも吐き出す子もいます。自分を第三者的な目で、客観視しながら「今日の振り返り」を書いていきます。作文を読むことによつて子どもたちの考えもわかります。

題や構成を指導するのですから、日々作文指導です。